

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学V	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	鎖骨・上腕骨骨折 肩関節脱臼 上腕部軟部組織損傷の発生機序・好発部位・症状 整復法・固定法・合併症について理解し記述できる。			評価方法			
授業概要	上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療について症例を交えて学習する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	鎖骨骨折：発生機序・好発部位・症状						
第2週	鎖骨骨折：整復法・固定法・合併症						
第3週	肩甲骨骨折						
第4週	鎖骨の脱臼						
第5週	確認テスト						
第6週	上腕骨骨折：骨頭骨折・解剖頸骨折						
第7週	上腕骨骨折：外科頸骨折その①						
第8週	上腕骨骨折：外科頸骨折その②						
第9週	上腕骨骨折：結節部骨折・骨端線離開						
第10週	肩関節脱臼その①						
第11週	肩関節脱臼その②						
第12週	肩・上腕軟部組織損傷その①						
第13週	肩・上腕軟部組織損傷その②						
第14週	練習問題						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	毎日の復習と小テストに向けて学習する。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学V	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	上腕骨骨幹部 上腕骨遠位部骨折骨折 ガレアジ骨折 肘関節部骨折ならび脱臼について発生機序・好発部位・症状整復法・固定法・合併症について理解し記述できる。			評価方法			
授業概要	上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療について症例を交えて学習する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	上腕骨骨幹部骨折その①						
第2週	上腕骨骨幹部骨折						
第3週	上腕骨遠位部骨折その①						
第4週	上腕骨遠位部骨折その②						
第5週	上腕骨遠位部骨折その③						
第6週	確認テスト						
第7週	肘関節脱臼その①						
第8週	肘関節脱臼その②						
第9週	肘軟部組織損傷						
第10週	橈骨近位端部骨折						
第11週	肘頭・橈骨骨幹部単独骨折						
第12週	ガレアジ骨折 尺骨単独骨折						
第13週	モンテギア骨折 前腕両骨骨幹部骨折						
第14週	練習問題						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	毎日の復習と小テストに向けて学習する。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学V	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	前腕軟部組織 神経 橈骨遠位部骨折 手根部・手指の骨折・脱臼ならび軟部組織損傷における発生機序・好発部位・症状 整復法・固定法・合併症について理解し記述できる。			評価方法			
授業概要	上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療について症例を交えて学習する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	前腕軟部組織・神経損傷その①						
第2週	前腕軟部組織・神経損傷その②						
第3週	橈骨遠位端部骨折その① Colls骨折						
第4週	橈骨遠位端部骨折その② Colls骨折整復・固定						
第5週	橈骨遠位端部骨折その③Smith骨折・骨端線理解・辺縁部骨折						
第6週	手関節軟部組織損傷・手根骨骨折①						
第7週	手根骨骨折その②						
第8週	中手骨・指の損傷その①						
第9週	指の骨折その②						
第10週	手・指の脱臼						
第11週	手・指の脱臼						
第12週	手の軟部組織損傷						
第13週	手の軟部組織損傷						
第14週	練習問題						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	毎日の復習と小テストに向けて学習する。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学総合Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	20
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	部位別に発生する可能性のある疾患が言え、その発生機序・好発部位・症状整復法・固定法・合併症について理解し記述できる。 練習問題で確実に正解出来る力をつける。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢・体幹の損傷を身体の総合的見地から判断する力をつける。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	上肢の損傷その1 肩・上腕部						
第2週	上肢の損傷その2 肘・前腕部						
第3週	上肢の損傷その3 手部						
第4週	下肢の損傷その1 骨盤・大腿部						
第5週	下肢の損傷その2 膝・下腿部						
第6週	下肢の損傷その3 足部						
第7週	体幹の損傷その1 頭蓋・肋骨						
第8週	体幹の損傷その2 頸椎・胸椎						
第9週	体幹の損傷その3 腰椎						
第10週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	毎日の復習と小テストに向けて学習する。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復実技IV	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院で約15年の施術業務経験有り	担当	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	患者への説明、助手への指示が適切に行える。 各損傷の視診、触診、ROM、徒手検査等を理解し適切に行える。 各損傷の整復、固定、後療法等を理解し適切に行える。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢における外傷について整復操作・固定法・検査法の実技を術者役、患者役、助手役と分担して学習する。			期末試験 100%  (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・実技編改定第2版	使用器材	整復・固定・検査に必要な各種用具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	整復実技⑩ハムストリングス損傷(肉離れ)						
第2週	整復実技⑪大腿四頭筋打撲						
第3週	整復実技⑫膝関節側副靭帯損傷(内側側副靭帯損傷)1						
第4週	整復実技⑫膝関節側副靭帯損傷(内側側副靭帯損傷)2						
第5週	固定⑬内側側副靭帯損傷(Xサポートテープ固定)1						
第6週	固定⑬内側側副靭帯損傷(Xサポートテープ固定)2						
第7週	整復実技⑬膝関節十字靭帯損傷(前十字靭帯損傷)1						
第8週	整復実技⑬膝関節十字靭帯損傷(前十字靭帯損傷)2						
第9週	整復実技⑭膝関節半月板損傷(内側半月損傷)1						
第10週	整復実技⑭膝関節半月板損傷(内側半月損傷)2						
第11週	整復実技⑮下腿三頭筋損傷(腓腹筋損傷)1						
第12週	整復実技⑮下腿三頭筋損傷(腓腹筋損傷)2						
第13週	実技試験(診察)						
第14週	実技試験(固定)						
第15週	筆記試験、解説						
授業外学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・実技編改定第2版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復実技IV	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	整骨院で約15年の施術業務経験有り	担当	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	患者への説明、助手への指示が適切に行える。 各損傷の視診、触診、ROM、徒手検査等を理解し適切に行える。 各損傷の整復、固定、後療法等を理解し適切に行える。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢における外傷について整復操作・固定法・検査法の実技を術者役、患者役、助手役と分担して学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・実技編改定第2版	使用器材	整復・固定・検査に必要な各種用具				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	整復実技⑩足関節外側靭帯損傷(前距腓靭帯損傷)1						
第2週	整復実技⑩足関節外側靭帯損傷(前距腓靭帯損傷)2						
第3週	固定⑫足関節外側靭帯損傷(局所副子固定)1						
第4週	固定⑫足関節外側靭帯損傷(局所副子固定)2						
第5週	固定⑭足関節外側靭帯損傷(バスケットウィーブテープ固定)1						
第6週	固定⑭足関節外側靭帯損傷(バスケットウィーブテープ固定)2						
第7週	固定⑮足関節外側靭帯損傷(フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定)1						
第8週	固定⑮足関節外側靭帯損傷(フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定)2						
第9週	固定⑪アキレス腱断裂(クラーメル副子固定)1						
第10週	固定⑪アキレス腱断裂(クラーメル副子固定)2						
第11週	固定⑤下腿骨骨幹部骨折1						
第12週	固定⑤下腿骨骨幹部骨折2						
第13週	実技試験(診察)						
第14週	実技試験(固定)						
第15週	筆記試験、解説						
授業外学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・実技編改定第2版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復実技IV	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院で約15年の施術業務経験有り	担当	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	患者への説明、助手への指示が適切に行える。 各損傷の視診、触診、ROM、徒手検査等を理解し適切に行える。 各損傷の整復、固定、後療法等を理解し適切に行える。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢における外傷について整復操作・固定法・検査法の実技を術者役、患者役、助手役と分担して学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・実技編改定第2版	使用器材	整復・固定・検査に必要な各種用具				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	整復実技⑦肘内障1						
第2週	整復実技⑦肘内障2						
第3週	整復実技⑧腱板損傷1						
第4週	整復実技⑧腱板損傷2						
第5週	整復実技⑨上腕二頭筋長頭腱損傷1						
第6週	整復実技⑨上腕二頭筋長頭腱損傷2						
第7週	固定④第5指中手骨頸部骨折1						
第8週	固定④第5指中手骨頸部骨折2						
第9週	固定⑥肋骨骨折(さらしと厚紙副子固定)1						
第10週	固定⑥肋骨骨折(さらしと厚紙副子固定)2						
第11週	固定⑩第2指PIP関節背側脱臼1						
第12週	固定⑩第2指PIP関節背側脱臼2						
第13週	実技試験(診察)						
第14週	実技試験(固定)						
第15週	筆記試験、解説						
授業外学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・実技編改定第2版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学VI	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	小川 勝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法の知識・技能を身につける。			評価方法			
授業概要	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法について学習する。総論として骨・関節、神経・筋肉の機能解剖と病態について復習し、各論として診断法、治療法、検査法についても学習する。(※一部、上肢の部分を含む)			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・理論編改定第6版	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	大腿部の軟部組織損傷(ハムストリングス損傷、大腿四頭筋打撲)						
第2週	膝関節の半月板損傷						
第3週	膝関節の靭帯損傷(側副靭帯損傷、十字靭帯損傷)						
第4週	下腿部の軟部組織損傷(腓腹筋の肉離れ、アキレス腱断裂)						
第5週	足関節の靭帯損傷(側副靭帯損傷)						
第6週	骨盤・股関節(解剖とアライメント、動的安定性、運動)1						
第7週	骨盤・股関節(解剖とアライメント、動的安定性、運動)2						
第8週	骨盤骨単独骨折・骨盤輪骨折1						
第9週	骨盤骨単独骨折・骨盤輪骨折2						
第10週	股関節脱臼・先天性股関節炎と臼蓋形成不全1						
第11週	股関節脱臼・先天性股関節炎と臼蓋形成不全2						
第12週	股関節の軟部組織損傷1						
第13週	股関節の軟部組織損傷2						
第14週	大腿骨骨折1						
第15週	筆記試験、解説						
授業外学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・理論編改定第6版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						



令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学Ⅵ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	小川 勝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法の知識・技能を身につける。			評価方法			
授業概要	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法について学習する。総論として骨・関節、神経・筋肉の機能解剖と病態について復習し、各論として診断法、治療法、検査法についても学習する。(※一部、上肢の部分を含む)			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・理論編改定第6版	使用器材					
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	大腿骨骨折2						
第2週	大腿骨骨折3						
第3週	膝関節(解剖とアライメント、動的安定性、運動)1						
第4週	膝関節(解剖とアライメント、動的安定性、運動)2						
第5週	大腿部、膝関節部の軟部組織損傷1						
第6週	大腿部、膝関節部の軟部組織損傷2						
第7週	膝蓋骨骨折・分裂膝蓋骨						
第8週	膝蓋骨脱臼・反復性膝蓋骨脱臼(亜脱臼)						
第9週	外傷性膝関節脱臼						
第10週	下腿骨近位端部骨折・下腿骨骨幹部骨折						
第11週	足関節(解剖とアライメント、動的安定性、運動)1						
第12週	足関節(解剖とアライメント、動的安定性、運動)2						
第13週	下腿骨遠位端部骨折1						
第14週	下腿骨遠位端部骨折2						
第15週	筆記試験、解説						
授業外学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・理論編改定第6版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学Ⅵ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	小川 勝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法知識・技能を身につける。			評価方法			
授業概要	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法について学習する。総論として骨・関節、神経・筋肉の機能解剖と病態について復習し、各論として診断法、治療法、検査法についても学習する。(※一部、上肢の部分を含む)			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・理論編改定第6版	使用器材					
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	下腿部の軟部組織損傷1						
第2週	下腿部の軟部組織損傷2						
第3週	下腿部の軟部組織損傷3						
第4週	足根骨骨折						
第5週	中足骨骨折・足指骨骨折						
第6週	ショパール関節脱臼・中足、足指部の脱臼						
第7週	足部の軟部組織損傷1						
第8週	足部の軟部組織損傷2						
第9週	肘内障						
第10週	腱板損傷						
第11週	上腕二頭筋長頭腱損傷						
第12週	第5指中手骨頸部骨折						
第13週	肋骨骨折						
第14週	第2指PIP関節背側脱臼						
第15週	筆記試験、解説						
授業外学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・理論編改定第6版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学IV	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	上肢・体幹の軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療に関する知識及び技術を習得し、記述も出来る			評価方法 小テスト(4回) 10% 期末試験 90% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	上肢・体幹の軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療に関して学習する。						
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	白板、パワーポイント、映写装置				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	頭部・顔面の損傷 頭蓋骨骨折 その1						
第2週	頭部・顔面の損傷 頭蓋骨骨折 その2						
第3週	頭部・顔面の骨折 鼻骨・鼻軟骨骨折 眼窩底破裂骨折						
第4週	頭部・顔面の骨折 頬骨・下顎骨骨折						
第5週	頭部・顔面の脱臼 顎関節脱臼 その1						
第6週	頭部・顔面の脱臼 顎関節脱臼 その2						
第7週	頭部・顔面の軟部組織損傷 頭部・顔面の打撲						
第8週	頭部・顔面の軟部組織損傷 顎関節症 顎関節捻挫						
第9週	頸部の損傷 頸椎の解剖と機能 頸椎の骨折 その1						
第10週	頸部の損傷 頸椎の解剖と機能 頸椎の骨折 その2						
第11週	頸部の損傷 頸椎の脱臼						
第12週	頸部の軟部組織損傷 外傷性頸部症候群						
第13週	頸部の軟部組織損傷 胸郭出口症候群 寝違え						
第14週	頸部の軟部組織損傷 斜頸 頸椎椎間板ヘルニア						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	3~4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復学Ⅳ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	上肢・体幹の軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療に関する知識及び技術を習得し、記述も出来る			評価方法			
授業概要	上肢・体幹の軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療に関して学習する。			小テスト(4回) 10% 期末試験 90% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	頸部の軟部組織損傷 頸椎症						
第2週	頸椎部の神経損傷 後縦靭帯骨化症						
第3週	頸椎部の神経損傷 外傷性腕神経叢麻痺						
第4週	頸椎部の神経損傷 分娩麻痺 副神経麻痺 長胸神経麻痺						
第5週	頸椎部の神経損傷 分娩麻痺						
第6週	胸・背部の損傷 胸・背部の解剖と機能 肋骨・肋軟骨骨折						
第7週	胸・背部の損傷 胸骨骨折						
第8週	胸・背部の損傷 胸椎の骨折						
第9週	胸・背部の損傷 胸椎の脱臼						
第10週	胸・背部の軟部組織損傷 胸肋関節損傷 肋間筋損傷 胸・背部打撲傷						
第11週	腰部の軟部組織損傷 腰椎骨折 腰椎脱臼						
第12週	腰部の軟部組織損傷 脊椎分離症 脊椎分離すべり症 変性すべり症 側弯症						
第13週	腰部の軟部組織損傷 変形性脊椎症 腰部脊柱管狭窄症						
第14週	腰部の軟部組織損傷 腰椎椎間板ヘルニア 強直性脊椎炎						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	3～4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	物理療法機器等の取り扱い	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	物理療法の取り扱い、適応や効果、禁忌などに関する知識および技術を習得し、記述出来る			評価方法			
授業概要	物理療法の取り扱い、適応や効果、禁忌などに関する知識および技術を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	エビデンスから身につける物理療法・ 柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	物理療法とは						
第2週	痛みの定義と分類						
第3週	関節可動域制限						
第4週	温熱療法						
第5週	治療法各論:ホットパック、パラフィン浴、水治療法、超短波療法						
第6週	治療法各論:超短波療法、極超短波療法、超音波療法						
第7週	治療法各論:寒冷療法						
第8週	治療法各論:光線療法						
第9週	治療法各論:電気をを用いた治療:TENS、NIMS						
第10週	治療法各論:電気をを用いた治療:イオンフォレーシス、バイオフィードバック療法						
第11週	治療法各論:電気をを用いた治療:創傷治癒のための電気刺激療法						
第12週	圧迫療法						
第13週	牽引療法						
第14週	振動刺激療法						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習の仕方の指導を行い、実行させる						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	相手との稽古などを通して身体や精神を鍛練修養し、自己完成して、礼法を通して相手を尊重する事を学ぶことを目標とする。			評価方法			
授業概要	柔道整復師の根元である柔道の礼法、基本的技術を学ぶことを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道の授業づくり(体育シリーズ)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	嘉納治五郎師範について 武道と柔道について						
第2週	指導者の責任と安全配慮義務						
第3週	柔道における事故要因と発生のメカニズム 事故や怪我を未然に防ぐ為には						
第4週	柔道着の扱い方 柔道に必要な体操とストレッチ						
第5週	礼法(立礼、坐礼)						
第6週	坐位からの後ろ受け身、横受け身 今後、毎回受け身を行う。						
第7週	前受け身、中腰からの受け身						
第8週	姿勢と組み方、進退動作						
第9週	組んでからの前回り受け身、横受け身、後ろ受け身、						
第10週	崩しと体さばき、足を払われての受け身						
第11週	腰に乗せての受け身、固め技の基本動作						
第12週	固め技の防御に必要な基本動作						
第13週	袈裟固め、横四方固め、縦四方固め						
第14週	小内刈り、大内刈り、小外刈り						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	授業だけではなく、柔道整復師と柔道との繋がりを通して、「道」を追求して欲しい。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	自己能力等に応じて新しい技を身に付けて、柔道の楽しさを知るようになる事。			評価方法			
授業概要	投げ技と関連付けて基本動作と技の系統を学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道の授業づくり(体育シリーズ)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	立ち技からの受け身の練習 小内刈り、大内刈り 毎回打ち込み ↓						
第2週	立ち技からの受け身の練習 小外刈り、出足払い						
第3週	固め技(絞め技)十字絞め、送り襟絞め						
第4週	固め技、攻撃の仕方						
第5週	投げ技 大腰 体落とし						
第6週	背負い投げ 釣り込み腰 受け身練習の為の無理のない投げ込みを毎回する。						
第7週	払い腰 膝車						
第8週	支え釣り込み足 大外刈り						
第9週	大内刈り 小内刈り 出足払い						
第10週	内股						
第11週	浮き腰 肩車						
第12週	技の連絡						
第13週	体さばきで投げる						
第14週	体さばきから投げ技に発展する						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	怪我には注意を払い、柔道を通して学力観を身に付けて欲しい。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道について</li> <li>・嘉納師範について</li> </ul> 卒業認定試験のための基礎的知識と技術習得			評価方法			
授業概要	実践的練習と卒業認定試験のための指導。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道の授業づくり(体育シリーズ)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	移動打込 毎回打ち込み						
第2週	約束練習 毎回約束乱取						
第3週	かかり練習						
第4週	自由練習						
第5週	技の発展、技の系統性						
第6週	回し系の技の練習						
第7週	得意技を作る						
第8週	試合の方法						
第9週	講道館ルール						
第10週	国際ルール						
第11週	卒業認定試験の為の礼法 ①柔道精神の修得と知識						
第12週	卒業認定試験の為の礼法 ②技の理論・姿勢						
第13週	卒業認定試験の為の受け身 ①足回しの使い方						
第14週	卒業認定試験の為の受け身 ②口頭試問の練習						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	怪我には特に注意し、自分に合った練習量で徐々に習得してもらいたい。						



令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復実技Ⅶ(OSCE含む)	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整骨院での業務全般を理解する。</li> <li>・各部位の骨折、脱臼、軟部組織損傷の診断、施術についての学習を理解し、疾患認知を深めること。</li> </ul>			評価方法			
授業概要	施術所現場での事務作業 上・下肢、体幹の骨折・脱臼・軟部組織損傷の診断や治療についての実技を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	療養費の取り扱い その1						
第2週	療養費の取り扱い その2						
第3週	頭部、顎関節部の疾患 診断の施術						
第4週	頸部の疾患 診断の施術						
第5週	体幹の疾患 診断と施術 その1 胸部						
第6週	体幹の疾患 診断と施術 その2 背部						
第7週	体幹の疾患 診断と施術 その3 腰部						
第8週	上肢の疾患の診断と施術 その1 鎖骨部、肩部、上腕部						
第9週	上肢の疾患の診断と施術 その2 肘部、前腕部						
第10週	上肢の疾患の診断と施術 その3 手関節部、手周辺部						
第11週	下肢の疾患の診断と施術 その1 骨盤部						
第12週	下肢の疾患の診断と施術 その2 大腿部、下腿部						
第13週	下肢の疾患の診断と施術 その3 足関節部、足周辺部						
第14週	総合演習 人体を総合的に診る。						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	予習、復習を心掛け該当箇所を記憶し、日々の授業に備えること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	石橋 徹	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	上肢の基本包帯法を指定時間内に正しく巻くことができる 鎖骨骨折・上腕骨外科頸骨折の診察および固定を指定時間内で説明と固定が正しく出来る			評価方法			
授業概要	遭遇する可能性の高い外傷を中心に、各損傷の理解をより深める為、整復操作・固定法・検査法の実技を行う。			口述試験と実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	固定具等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	肘～肩関節部(基本包帯法)						
第2週	手～肘関節部(基本包帯法)						
第3週	鎖骨骨折(診察及び整復法)1						
第4週	鎖骨骨折(診察及び整復法)2						
第5週	鎖骨骨折(固定法)1※固定具の作成を含む						
第6週	鎖骨骨折(固定法)2						
第7週	鎖骨骨折(固定法)3						
第8週	上腕骨外科頸骨折(診察及び整復法)1						
第9週	上腕骨外科頸骨折(診察及び整復法)2						
第10週	上腕骨外科頸骨折(固定法)1※固定具の作成を含む						
第11週	上腕骨外科頸骨折(固定法)2						
第12週	上腕骨外科頸骨折(固定法)3						
第13週	復習						
第14週	復習						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	空き時間を利用して互いに練習する。繰り返しが重要である。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	石橋 徹	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	Colles骨折の診察及び固定を指定された時間内に正しくできる。 肩鎖関節・肩関節脱臼の診察と整復を指定された時間内に正しくできる。			評価方法			
授業概要	遭遇する可能性の高い外傷を中心に、各損傷の理解をより深める為、整復操作・固定法・検査法の実技を行う。			口述試験と実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP、固定具等				
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	Colles骨折(診察及び整復法)1						
第2週	Colles骨折(診察及び整復法)2						
第3週	Colles骨折(固定法)1※固定具の作成を含む						
第4週	Colles骨折(固定法)2						
第5週	Colles骨折(固定法)3						
第6週	肩鎖関節脱臼(診察及び整復法)1						
第7週	肩鎖関節脱臼(診察及び整復法)2						
第8週	肩鎖関節脱臼(固定法)1※固定具の作成を含む						
第9週	肩関節脱臼(診察及び整復法)1						
第10週	肩関節脱臼(診察及び整復法)2						
第11週	肩関節脱臼(固定法)1※固定具の作成を含む						
第12週	肩関節脱臼(固定法)2						
第13週	復習						
第14週	復習						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	空き時間を利用して互いに練習する。繰り返しが重要である。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	石橋 徹	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	肘関節脱臼の診察及び固定が指定された時間内にたたく出来る。 足関節・膝関節の基本包帯を指定された時間内に正しく巻ける。 冠名包帯を指定された時間内に正しく巻ける。			評価方法			
授業概要	遭遇する可能性の高い外傷を中心に、各損傷の理解をより深める為、整復操作・固定法・検査法の実技を行う。			口述試験と実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP、固定具等				
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	肘関節脱臼(診察及び整復法)1						
第2週	肘関節脱臼(診察及び整復法)2						
第3週	肘関節脱臼(固定法)1※固定具の作成を含む						
第4週	肘関節脱臼(固定法)2						
第5週	肘関節脱臼(固定法)3						
第6週	足～膝関節部(基本包帯法)						
第7週	冠名包帯法(デゾー包帯、ウエルポー包帯、ジュール包帯)1						
第8週	冠名包帯法(デゾー包帯、ウエルポー包帯、ジュール包帯)2						
第9週	復習(鎖骨骨折・鎖骨脱臼)						
第10週	復習(外科頸骨折)						
第11週	復習(肩関節脱臼)						
第12週	復習(肘関節脱臼)						
第13週	復習(全般)						
第14週	復習(全般)						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	空き時間を利用して互いに練習する。繰り返しが重要である。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	生理学Ⅱ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1年生次に学んだ生理学(生理学の基礎、血液の生理学、体液の生理学、循環の生理学、呼吸の生理学、消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄)の理解をより深め、演習による知識の定着により、着実に国家試験に備える。			評価方法	期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)		
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識(生理学の基礎、血液の生理学、体液の生理学、循環の生理学、呼吸の生理学、消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄)の修得を目指す。						
教科書等	生理学、配布資料	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	第1章 生理学の基礎のまとめ、演習						
第2週	第2章 血液の生理学のまとめ演習 A:血液の役割 B:血液の組成						
第3週	C:免疫機能 D:血液型 E:血液凝固						
第4週	第12章 体液の生理学のまとめ、演習						
第5週	第3章 循環の生理学のまとめ、演習 A:心臓の機能 B:血管系 C:リンパ管系						
第6週	D:循環の調節 E:局所循環 F:脳脊髄液循環						
第7週	第4章 呼吸の生理学のまとめ、演習 A:呼吸器の機能的構造 B:換気 C:ガス交換						
第8週	D:酸素の運搬 E:二酸化炭素の運搬 F:呼吸調節のしくみ G:呼吸の異常 H:特殊環境下の呼吸 I:人口呼吸						
第9週	第5章 消化と吸収のまとめ、演習 A:消化器系の働き B:消化管の運動とその調節 C:消化液の分泌機序						
第10週	D:消化 E:吸収 F:消化管ホルモン G:肝臓と胆道系						
第11週	第6章 栄養と代謝のまとめ、演習						
第12週	第7章 体温とその調節のまとめ、演習						
第13週	第8章 尿の生成と排泄のまとめ、演習 A:腎の構造と機能 B:糸球体ろ過 C:尿細管における再吸収						
第14週	D:尿細管における分泌 E:尿の成分 F:排尿						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	生理学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1年生次に学んだ生理学(内分泌系の機能、生殖、骨の生理学、神経の基本的機能、神経系の機能、筋肉の機能、感覚の生理学)の理解をより深め、演習による知識の定着により、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識(内分泌系の機能、生殖、骨の生理学、神経の基本的機能、神経系の機能、筋肉の機能、感覚の生理学)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学、配布資料	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	第9章 内分泌系の機能のまとめ、演習 A: 内分泌線 B: ホルモン的一般的特質 C: ホルモンの種類と作用 D: 視床下部のホルモン E: 下垂体ホルモン F: 甲状腺のホルモン						
第2週	G: 副腎皮質のホルモン H: 副腎髄質のホルモン I: 膵臓のホルモン J: 精巣のホルモン K: 卵巣のホルモン						
第3週	第10章 生殖のまとめ、演習						
第4週	第11章 骨の生理学のまとめ、演習						
第5週	第13章 神経の基本的機能のまとめ、演習 A: 神経細胞の形態 B: 静止膜電位 C: 活動電位 D: 閾刺激 E: 全か無かの法則 F: 不応期						
第6週	G: イオンチャネル H: 興奮の伝導 I: 複合活動電位 J: 興奮の伝達						
第7週	第14章 神経系の機能 A: 神経系の成り立ち B: 内臓機能の調節 C: 内臓機能の視床下部による調節						
第8週	D: 姿勢と運動の調節						
第9週	E: 高次機能						
第10週	第15章 筋肉の機能 A: 筋肉の種類と特徴 B: 骨格筋の構造 C: 筋収縮の仕組み D: 筋細胞膜を興奮させるしくみ						
第11週	E: 骨格筋の収縮の仕方 F: 筋肉の長さや張力との関係 G: 筋収縮のエネルギー H: 筋の熱発生 I: 筋電図 J: 平滑筋 K: 心筋						
第12週	第16章 感覚の生理学 A: 感覚の種類 B: 感覚の一般的性質 C: 体性感覚 D: 内臓感覚						
第13週	E: 嗅覚と味覚 F: 聴覚 G: 視覚 H: 前庭感覚						
第14週	第9章から第16章のまとめ、演習						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	病理学概論	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	・講義内容(細胞傷害・循環障害・進行性病変・炎症・免疫異常・アレルギー・腫瘍・先天性異常・病因)の理解。 ・講義毎の小テストをすべて解けるようにし、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	柔道整復師として必要な病理学の基礎知識(細胞傷害・循環障害・進行性病変・炎症・免疫異常・アレルギー・腫瘍・先天性異常・病因)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	病理学概論 配布資料	使用器材	パソコン 液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第1章. 病理学とは 第2章. 疾病の一般						
第2週	第3章. 細胞性障害(1)(A細胞障害の定義、B萎縮、C変性、D代謝障害と疾病)						
第3週	第3章. 細胞性障害(2)(E壊死、F死) 第4章. 循環障害(1)(A血液の循環障害)						
第4週	第4章. 循環障害(2)(Bリンパ液の循環障害、C脱水症、D高血圧症)						
第5週	第5章. 進行性病変						
第6週	第6章. 炎症(1)(A炎症の一般)						
第7週	第6章. 炎症(2)(B炎症の分類) 第7章. 免疫異常・アレルギー(1)(A免疫の仕組み、B免疫不全、C自己免疫疾患)						
第8週	第7章. 免疫異常・アレルギー(2)(Dアレルギー) 第8章. 腫瘍(1)(A腫瘍の概念(4腫瘍の組織的構造まで))						
第9週	第8章. 腫瘍(2)(A腫瘍の概念)						
第10週	第8章. 腫瘍(3)(B腫瘍の分類)						
第11週	第9章. 先天性異常						
第12週	第10章. 病因(1)(A病因の一般、B内因)						
第13週	第10章. 病因(2)(B外因)						
第14週	第1章から第10章のまとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	一般臨床医学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	医師(病院実務研修有り)	担当	吉武 毅人	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	柔道整復師は患者を診察し、「施術所で治療するのか」、「医療機関への受診勧奨をするのか」の判断を常に求められる。このため、以下の項目を到達目標とする。 ①診察の基本を身につける。 ②内科疾患を中心とした疾患の概念を身につける。			評価方法			
授業概要	内科学一般・内科診断学を通じて、内科的疾患とその診察法について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	一般臨床医学・配布資料	使用器材	PC(PCプロジェクター・OHP)				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	オリエンテーション・診察概論1						
第2週	診察概論2(生命徴候・医療面接・視診・打診・聴診・触診・人体の階層性)						
第3週	呼吸器疾患1						
第4週	呼吸器疾患2						
第5週	循環器疾患1						
第6週	循環器疾患2						
第7週	消化器疾患1						
第8週	消化器疾患2						
第9週	肝・胆・膵1						
第10週	肝・胆・膵2						
第11週	代謝性疾患						
第12週	内分泌疾患1						
第13週	内分泌疾患2						
第14週	まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						



令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	一般臨床医学 I	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	医師(病院実務研修有り)	担当	吉武 毅人	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	柔道整復師は患者を診察し、「施術所で治療するのか」、「医療機関への受診勧奨をするのか」の判断を常に求められる。このため、以下の項目を到達目標とする。 ①診察の基本を身につける。 ②内科疾患を中心とした疾患の概念を身につける。			評価方法  期末試験 100%  (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	内科学一般・内科診断学を通じて、内科的疾患とその診察法について学ぶ。						
教科書等	一般臨床医学・配布資料	使用器材	PC(PCプロジェクター・OHP)				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	血液疾患1						
第2週	血液疾患2						
第3週	腎・尿路疾患1						
第4週	腎・尿路疾患2						
第5週	感染症・リウマチ性疾患						
第6週	神経疾患1						
第7週	神経疾患2						
第8週	診察各論(視診1)						
第9週	診察各論(視診2)						
第10週	診察各論(打診)						
第11週	診察各論(聴診1)						
第12週	診察各論(聴診2)						
第13週	まとめ1						
第14週	まとめ2						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	一般臨床医学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	医師(病院実務研修有り)	担当	吉武 毅人	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	柔道整復師は患者を診察し、「施術所で治療するのか」、「医療機関への受診勧奨をするのか」の判断を常に求められる。このため、以下の項目を到達目標とする。 ①診察の基本を身につける。 ②内科疾患を中心とした疾患の概念を身につける。			評価方法			
授業概要	内科学一般・内科診断学を通じて、内科的疾患とその診察法について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	一般臨床医学・配布資料	使用器材	PC(PCプロジェクター・OHP)				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	診察各論(触診1)						
第2週	診察各論(触診2)						
第3週	生命徴候1						
第4週	生命徴候2						
第5週	知覚検査						
第6週	反射検査						
第7週	代表的な臨床症状(発熱・出血傾向)						
第8週	代表的な臨床症状(リンパ筋腫脹・意識障害)						
第9週	代表的な臨床症状(チアノーゼ・関節痛)						
第10週	代表的な臨床症状(浮腫・肥満・やせ)						
第11週	検査法						
第12週	まとめ1(前期内容)						
第13週	まとめ2(中期内容)						
第14週	まとめ3(後期内容)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	運動学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	大田尾 浩	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 運動器の構造について説明することができる。 2 正常な身体運動の機能を理解することができる。 3 疾病等による異常な運動を述べるることができる。			評価方法			
授業概要	人間の運動に関わる身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、正常な構造と機能について学修する。とくに、骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	斎藤宏・鴨下博:運動学、医歯薬出版	使用器材	配布資料、視聴覚教材等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	運動学の目的(運動学とは、運動のとらえ方) (P1~4)						
第2週	運動の表し方(運動の表示、関節運動の表示) (P5~8)						
第3週	身体運動と力学(身体運動に関する力、人体における単一機械構造) (P9~16)						
第4週	身体運動と力学(運動の法則、仕事と力学的エネルギー) (P17~22)						
第5週	運動器の構造と機能(骨の構造と機能、関節の構成と機能) (P23~31)						
第6週	運動器の構造と機能(骨格筋の構造と機能) (P32~40)						
第7週	前半部まとめ (P1~40)						
第8週	神経の構造と機能(神経細胞、末梢神経) (P41~45)						
第9週	神経の構造と機能(中枢神経) (P46~50)						
第10週	運動感覚(感覚と知覚、運動感覚と運動の制御機構) (P51~56)						
第11週	反射と随意運動(反射、連合運動と共同運動) (P57~64)						
第12週	反射と随意運動(随意運動) (P65~68)						
第13週	四肢と体幹の運動(肩甲帯) (P69~77)						
第14週	後半部まとめ (P41~77)						
第15週	期末試験、解説 (P1~77)						
授業外 学習指示等	1 指定した教科書を受講前に読んでおくこと。 2 講義時に配布するプリントを用いて復習すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	運動学	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	大田尾 浩	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 運動器の構造について説明することができる。 2 正常な身体運動の機能を理解することができる。 3 疾病等による異常な運動を述べるることができる。			評価方法	期末試験 100%		
授業概要	人間の運動に関わる身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、正常な構造と機能について学修する。とくに、骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。			(100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	斎藤宏・鴨下博:運動学、医歯薬出版	使用器材	配布資料、視聴覚教材等				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	四肢と体幹の運動(肩関節の運動) (P78~83)						
第2週	四肢と体幹の運動(肩関節の運動) (P84~91)						
第3週	四肢と体幹の運動(肘関節と前腕の運動) (P92~101)						
第4週	四肢と体幹の運動(手関節と手の運動) (P102~107)						
第5週	四肢と体幹の運動(手関節と手の運動) (P108~113)						
第6週	四肢と体幹の運動(股関節の運動) (P114~119)						
第7週	前半部まとめ (P78~119)						
第8週	四肢と体幹の運動(股関節の運動) (P120~124)						
第9週	四肢と体幹の運動(膝関節の運動) (P125~130)						
第10週	四肢と体幹の運動(膝関節の運動) (P131~137)						
第11週	四肢と体幹の運動(足関節と足部の運動) (P138~142)						
第12週	四肢と体幹の運動(足関節と足部の運動) (P143~147)						
第13週	四肢と体幹の運動(体幹と脊柱の運動) (P148~153)						
第14週	後半部まとめ (P120~153)						
第15週	期末試験、解説 (P78~153)						
授業外 学習指示等	1 指定した教科書を受講前に読んでおくこと。 2 講義時に配布するプリントを用いて復習すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	運動学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	大田尾 浩	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 運動器の構造について説明することができる。 2 正常な身体運動の機能を理解することができる。 3 疾病等による異常な運動を述べるることができる。			評価方法			
授業概要	人間の運動に関わる身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、正常な構造と機能について学修する。とくに、骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	斎藤宏・鴨下博:運動学、医歯薬出版	使用器材	配布資料、視聴覚教材等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	四肢と体幹の運動(体幹と脊柱の運動) (P148~154)						
第2週	四肢と体幹の運動(頸椎の運動) (P155~160)						
第3週	四肢と体幹の運動(頸椎の運動) (P161~166)						
第4週	四肢と体幹の運動(胸椎と胸郭の運動) (P167~172)						
第5週	四肢と体幹の運動(腰椎と仙椎および骨盤の運動) (P173~176)						
第6週	四肢と体幹の運動(顔面および頭部の運動) (P177~183)						
第7週	前半部まとめ (P148~183)						
第8週	姿勢(姿勢の分類、重心、立位姿勢、立位姿勢の制御) (P184~188)						
第9週	歩行(歩行周期、歩行の運動学的分析) (P189~193)						
第10週	歩行(歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動、歩行のエネルギー代謝) (P194~199)						
第11週	歩行(走行、異常歩行) (P200~206)						
第12週	運動発達(神経組織の成熟、乳幼児の運動発達) (P207~211)						
第13週	運動学習 (P212~230)						
第14週	後半部まとめ (P184~230)						
第15週	期末試験、解説 (P148~230)						
授業外 学習指示等	1 指定した教科書を受講前に読んでおくこと。 2 講義時に配布するプリントを用いて復習すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	解剖学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1年生で学んだことを復習していき、不足している部分を確認し分からないところがないようにする。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、柔道整復師になるための基礎学力と応用力をつけることを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、図解解剖学辞典、配布資料	使用器材	OHP、白板				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	解剖学総論① (確認プリント・演習問題)						
第2週	解剖学総論② (確認プリント・演習問題)						
第3週	骨格系① 総論 (確認プリント・演習問題)						
第4週	骨格系② 脊柱 (確認プリント・演習問題)						
第5週	骨格系③ 胸郭 (確認プリント・演習問題)						
第6週	骨格系④ 上肢 (確認プリント・演習問題)						
第7週	骨格系⑤ 下肢 (確認プリント・演習問題)						
第8週	骨格系⑥ 頭蓋 (確認プリント・演習問題)						
第9週	筋系① 総論 (確認プリント・演習問題)						
第10週	筋系② 頭部・頸部 (確認プリント・演習問題)						
第11週	筋系③ 胸部・腹部 (確認プリント・演習問題)						
第12週	筋系④ 背部 (確認プリント・演習問題)						
第13週	筋系⑤ 上肢 (確認プリント・演習問題)						
第14週	筋系⑥ 下肢 (確認プリント・演習問題)						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1年生の時に使用したノートや参考資料も使いながら、復習するようにして下さい。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 2年	科目名	解剖学Ⅱ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	解剖学の全ての確認復習ができ、国家試験問題が解けるようになる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、柔道整復師になるための基礎学力と応用力をつけることを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、図解解剖学辞典、配布資料	使用器材	OHP、白板				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	内臓系① (確認プリント・演習問題)						
第2週	内臓系② (確認プリント・演習問題)						
第3週	内臓系③ (確認プリント・演習問題)						
第4週	内分泌系① (確認プリント・演習問題)						
第5週	内分泌系② (確認プリント・演習問題)						
第6週	脈管系① (確認プリント・演習問題)						
第7週	脈管系② (確認プリント・演習問題)						
第8週	神経系① (確認プリント・演習問題)						
第9週	神経系② (確認プリント・演習問題)						
第10週	神経系③ (確認プリント・演習問題)						
第11週	感覚器系① (確認プリント・演習問題)						
第12週	感覚器系② (確認プリント・演習問題)						
第13週	体表解剖系① (確認プリント・演習問題)						
第14週	体表解剖系② (確認プリント・演習問題)						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	時間がある時は、国試の過去問を解いたりすることで、自分の力がどれくらいついているかを確認し、足りない部分は復習をしっかりと行うようにして下さい。						